CASBEEhyouka7\_64.xls 結果

## 【**八**SBEE **名古屋** ▮評価結果 ▮

使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0) 1-1 建物概要 1-2 外観 (仮称)コーナンPRO中川四女子店 建物名称 階数 地上2F 愛知県名古屋市中川区四女子町-建設地 丁目6番、7番、8番 用途地域 準工業地域、準防火地域 平均居住人員 576 人 地域区分 6地域 年間使用時間 3,650 時間/年(想定値 建物用途 物販店 評価の段階 実施設計段階評価 2026年4月 竣工年 評価の実施日 2025年8月18日 敷地面積 5,311 m<sup>2</sup> 作成者 確認日 2025年9月5日 建築面積 2.112 m 延床面積 確認者 4.120 m ト 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャ-2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャ 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) Q2 サービ ス性能 W 1-1 1-1 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ \*\* B:\*\* C: ★ Q3 室外環 BEE=1.0 標準計算 Q1 ■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト 100 室内環境 B+ ①参昭値 (敷地内) ②建築物の取組み Ø B-③上記+②以外の 强**编品** 强**编品** 77% オンサイト手法 LR1 LR3 4)上記+ 數地外理 エネル オフサイト手法 
 0
 46
 92
 138
 184

 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示
С LR2 資源· 50 **環境負荷 L** マテリアル 2-4 中項目の評価(バーチャー Q *のスコア*= 2.7 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q2のスコア= 2.9 Q1のスコア= 2.8 Q3のスコア= 2.5 3 2.8 2.6 2.6 2.5 2.0 対応性 ・更新性 まちなみ ・景観 耐用性 地域性· 音環培 温埶環培 光·視環境 空気質環境 機能性 生物環培 R 環境負荷低減性 LR1 エネルギ LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 LR1のスコア= 3.3 LR2のスコア= 3.2 LR3のスコア=3.3 3.9 3 3.0 非再生材料の 地球温暖化 地域環境 周辺環境 汚染物質 建物外皮の 白然エネ 設備システ 効率的 水資源 3 設計上の配慮事項 その他 特になし。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。 特になし。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。 **階高:3.9m以上** 0.1≦[壁長さ比率]<0.3 LR1 エネルギ BEIm=0.73 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 ライフサイクルCO2排出率が77%。 「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易 燃焼機器を使用していない。

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
- ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

に分別可能。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。

- ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 【八SBEE 名古屋 Ⅰ評価結果Ⅰ

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)コーナンPRO中川四女子店 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

■評価ソフト:

	重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上 地域性のある材料の使用※1	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮	<del>711</del>	0.009	
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2		0.01875	

結果 1. 温暖化対策	評価点 = 3.4
2. 自然共生	評価点 = 2.3
3. 循環型社会	評価点 = 3.0

重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア= (評価点×全体に対する重み)の総和 全体に対する重みの総和

※1 ここでは、Q3.3.1の評価する取組みのうち評価項目 I2)地域性のある材料の使用 又は、Q3.2において評価 する取組みのうち評価項目 4)地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。